

小学校祝日大祭日儀式規程とその式次第

仲 嶺 政 光

(富山大学地域連携推進機構生涯学習部門准教授)



1. 儀式の価値は「外形」にある

「学校の訓話、幼年生にはよく分らずとも、儀式の教育的価値は、發揮し得られないものではないと思ふのである。即ち、儀式の価値は、概ね、外形に現れた莊嚴なる形式に依て發揮し得らるゝものであるから、幼年生は、縱令、訓話の大部分が分らぬとしても、其の式場の莊嚴、會衆の謹慎靜肅、學校長の謹嚴なる態度等に依て、外形より感情を刺戟せらるゝことが多大であるからである。是に依て考へて見ると、訓話は、儀式舉行については、第二位にあるもので、第一位にあるものは、儀式そのものゝやり方、即ち、外形に現はるゝ部分であると思ふ」(相島 1910 : 71、傍点引用者)。

儀式の価値は、そこで述べられる訓話よりも式場の莊嚴さ、謹慎・靜肅の様子、校長の謹嚴なる態度、すなわち「外形」にある——訓話の中身を二の次とするこの意見が学校儀式の性質や機能に對しある程度的を射たものであるとすれば、儀式の「外形」の成り立ちについて考えることには一定の意義があると言えよう。第二次小学校令(1890年10月7日)、「小学校ノ毎週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ関シテハ文部大臣之ヲ規定ス」(第15条)という条文に基づき、「小学校祝日大祭日儀式規程」(1891年6月17日、以下「儀式規程」と表現、本稿末尾に掲載)が制定され、すぐさま最敬礼の方法も示された(1891年7月3日、佐藤編 2002 : 168)。儀式規程は祝日大祭日の儀式における御真影・教育勅語の取り扱いや唱歌斉唱について定めた省令として知られ、なぜか祝祭日以外の他の儀式的行事にもその「外形」に大きな影響を与えることになったものである。

2. 儀式規程の内容

当初、儀式規程では十項目に及ぶ祝日大祭日儀式について、それぞれ次のような内容を執行すべきことが示された(表1に一覧を示した)。

<紀元節・天長節・元始祭・神嘗祭・新嘗祭>

- ① 学校長教員及び生徒による天皇・皇后の「御影」への最敬礼と万歳
- ② 学校長又は教員による教育勅語の奉読
- ③ 学校長又は教員による誨告、又は祝祭日に相應する演説
- ④ 学校長・教員・生徒による相應する唱歌の合唱

<孝明天皇祭・春季皇霊祭・神武天皇祭・秋季皇霊祭>

- ③学校長又は教員による誨告、又は祝祭日に相応する演説
- ④学校長・教員・生徒による相応する唱歌の合唱

<一月一日>

- ①学校長教員及び生徒による天皇・皇后の「御影」への最敬礼と万歳
- ④学校長・教員・生徒による相応する唱歌の合唱

表1 儀式規程に示された内容

	①第一条第一款 御影に最敬礼・万歳	②第一条第二款 教育勅語奉読	③第一条第三款 相応する誨告演説	④第一条第四款 相応する唱歌
紀元節、天長節、元始祭、 神嘗祭、新嘗祭				
孝明天皇祭、春季皇霊祭、 神武天皇祭、秋季皇霊祭				
一月一日				

表1をみると、祝日大祭日儀式には、①～④までの内容すべてをこなす「フル・コース」（佐藤2005：261）の儀式5件と、部分的に内容を欠いた儀式5件とに分かたれる。このような差異化された儀式の構成が考案されたのは、次のような事情に基づくものであったと考えられる。

まず、孝明天皇祭、春季皇霊祭、神武天皇祭、秋季皇霊祭は、明治天皇・皇后からみて先帝以前を対象とする儀式であることを明確化する必要があったことがあげられよう。このため、明治天皇・皇后の像や観念を強く打ち出す効果を持つ①「御影」拝謁・最敬礼・万歳と②教育勅語奉読が控えられることになったように思われる。また、一月一日は新年にあたり、その祝日の性格をより大きく保持しようとしたためか、儀式の厳格な性格を強める要素は①「御影」拝謁・最敬礼・万歳のみにとどめ、②教育勅語奉読、③誨告・演説の方は避けるべきである、という判断があったのではないかと考えられる。

3. 回数が制限された祝日大祭日儀式

表2は儀式規程に記された祝日大祭日の一覧である。

表2 儀式規程における祝日大祭日一覧

1月1日	四方拝	4月3日	神武天皇祭
1月3日	元始祭	9月23日	秋季皇霊祭
1月30日	孝明天皇祭	10月17日	神嘗祭
2月11日	紀元節	11月3日	明治天長節
3月21日	春季皇霊祭	11月23日	新嘗祭

儀式規程は、その制定から約2年後に早くも変更が加えられることになる。その変更の背景には、祝日大祭日の儀式の回数が多すぎたことがある。儀式の頻繁化により、かえってその期待される効

果が退き「疎慢ノ嫌」が出てくるおそれがあるため、儀式を挙行すべき日を三大節に限定し、その他は任意で実施するという措置がとられた（佐藤 1963：50、佐藤編 2002：175）。

さらにその7年ほど後、1900年8月21日には小学校令施行規則が制定された。儀式規程に若干の変更を加えたその第28条（本稿末尾に掲載）は、「紀元節・天長節・一月一日に、『職員及児童「君が代」を合唱す』が新たに加えられたフル・コースを等しく施行することと規定し、それが以後の式目の定型とみなされた」（佐藤 2005：261）。この定型化された三大節儀式の挙行は中等学校レベルにも広く及んでいったとされる（小野 2010：39）。

4. 各地で定められた「次第」について

儀式規程に立ち戻ろう。同規程第8条において、「祝日大祭日ノ儀式ニ関スル次第等ハ府県知事之ヲ規定スヘシ」とされ、間もなく各地で式の「次第」が定められていった。「次第」は、儀式規程という政策と個々の学校のあいだを媒介する役目を負うことになる。この「次第」について山本信良は次のように述べている。「儀式の開始から終了まで、詳細な式次第が規定され、その配慮と緻密さは注目される……儀式過程の画一化と統一化が押し進められた」（山本 1999：123）。籠谷次郎の調べによれば、「次第」は「大阪府のほか、青森、岩手、福島、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、長野、富山、石川、京都、兵庫、長崎、熊本の各府県など、管見の限り、記述の様式・表現にはそれぞれ違いはあるが、詳細な記載はすべて共通するところである」とされている（籠谷 1994：7）。

本稿では、このうち埼玉県、長野県、兵庫県、富山県、大阪府の5つの「次第」を取りあげることとした（本稿末尾に掲載）。ここでは、儀式規程第1条、「フル・コース」の儀式を中心に、いくつか特徴的なことについて述べる。

- （1）儀式規程は、儀式の骨格についてある程度のことが既に定められている。すなわち、権威づけられた皇室文化の諸要素が列挙されることで、強固なナショナリズムを喚起させる構成を基本としている。
- （2）従って、儀式規程第8条において定めるべきとされた「次第」は、儀式規程の内容のごく限られた範囲内でのことになり、その自由度・創造の余地はきわめて狭められたといえる。表3にみるように、厳格な内容が連続しないようにという配慮からか、①御真影・最敬礼と②教育勅語奉読の間に祝辞や唱歌をはさむという若干の「工夫」のようなものがみられる程度である。その点を除けば、誰が、いつ、何をなすべきか、その内容と順序は儀式規程で示された骨格が画一的に基準化されていったようにみえる。

表3 儀式規程第一条の式次一覧

	*	①	*	②	③	④
儀式規程		御真影		勅語奉読	誨告・演説	唱歌
埼玉県次第		御真影		勅語奉読	誨告・演説	唱歌
長野県次第		御真影	(祝辞・君が代)	勅語奉読	演説	唱歌
兵庫県次第		御真影	(拝賀・君が代)	勅語奉読	誨告・演説	唱歌
富山県次第		御真影	(祝辞・唱歌)	勅語奉読	誨告・演説	唱歌
大阪府次第		御真影	(唱歌)	勅語奉読	演説・祝辞	唱歌
施行規則 28 条	君が代	御真影		勅語奉読	誨告	唱歌

・「次第」には、冒頭・末尾に入退場の要領が記されている場合が多い。

・御真影に対しては「最敬礼」をなすことが記されている。

(3) 従って、各地で定めるべきとされた「次第」は、実際には、各府県独自の「次第」を定めるというよりも儀式規程を詳細化・具体化することが主な作業内容になってくる。「次第」では、入退場の要領、式の始まり・終わりを宣すること、起立・着席の指示など、動作を細かく定めることがなされている。その中には、例えば富山県の「次第」のように、それがそのまま儀式のマニュアルであるといってもよいような詳細な記述もみられる。

(4) 「次第」では、特別な式場づくりと正装が奨励されている（表4参照）。埼玉県の「次第」第5条を例にみると、「祝日大祭日ニハ殊ニ校内ヲ清潔ニシ校門及式場ニハ国旗ヲ交叉シ相応ノ裝飾ヲナス等統テ嚴肅鄭重ヲ主トスヘシ」とされており、入念な式場づくりがなされていたことがわかる。この他、長野県の「次第」では学校内外の参加者の服装について言及がある。「町村長学校職員其他参列員ハ礼服又ハ袴羽織ヲ着スヘシ」（第6条）、「生徒及参観人ニハ可成礼服羽織袴又ハ洋服ヲ着セシムヘシ」（第7条）。

表4 「次第」における但し書き

	式場	服装	御真影	唱歌
儀式規程			但未タ御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ本文前段ノ式ヲ省ク	
埼玉県次第	祝日大祭日ニハ殊ニ校内ヲ清潔ニシ校門及式場ニハ国旗ヲ交叉シ相応ノ裝飾ヲナス等統テ嚴肅鄭重ヲ主トスヘシ			
長野県次第	式場ハ清潔ニシテ整肅ナルヲ要ス	町村長学校職員其他参列員ハ礼服又ハ袴羽織ヲ着スヘシ／生徒及参観人ニハ可成礼服羽織袴又ハ洋服ヲ着セシムヘシ	但未タ御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ第四款第十款第十一款ヲ省ク	第一条第六款第九款第二条第五款第三条第六款第七款ハ唱歌ヲ教授セサル学校ニ於テハ之ヲ省クコトヲ得

兵庫県次第	祝日大祭日ノ儀式ハ特ニ式場ヲ設ケ厳肅に挙行スヘシ	学校長教員及参列員ハ必ス礼服ヲ着用スヘシ	未タ御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ前項第三款第四款及第七款ノ儀式ヲ省ク	但唱歌ヲ合唱シ能ハサル学校ニ於テハ之ヲ省クコトヲ得
富山県次第	式場ニ於テハ最モ厳肅ヲ主トスヘシ	市町村長学校長教員市町村学事関係吏員ハ当日礼服ヲ着用スヘシ	御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ第一条第三款第四款ノ式ヲ省ク	
大阪府次第	祝日大祭日ノ儀式ヲ執行スル為メ清潔ナル場所ヲ撰ヒ御影ニ関シテハ最厳正ナル装飾ヲナスヘシ	凡式場ニ参集スルモノハ決シテ浮華虚飾ノ事アルヘカラス	未タ御影ヲ拝戴セサル学校ニ在テハ拝礼ノ次第ハ之ヲ省キ万歳ヲ奉祝(発声ヲナス)シテ最敬礼ヲ行フヘシ	
施行規則 28 条			御影ヲ拝戴セサル学校及特ニ府県知事ノ認可ヲ受ケ複写シタル御影若ハ府県知事ニ於テ適当ト認メタル御影ヲ奉戴セサル学校ニ於テハ前項第二号ノ式ヲ闕ク	唱歌ヲ課セサル学校ニ於テハ第一号及第五号ノ式ヲ闕クコトヲ得

(5) 儀式執行の際には、やはり「外形」、すなわち教師・生徒ともに厳かな動作を順次こなすことがかなり重視されていたようにみえる。例えば御真影をもたない学校でも、「万歳」により祝意の表現をなすように定められている。さらに、大阪府や長野県の「次第」のように、御真影のない学校においても最敬礼をおこなうよう取り決めている地域もある。そこでは、御真影の有無にかかわらず最敬礼をおこなうこと自体が儀式の「外形」を整えるものとして重要視されていたといえる。

(6) 儀式における御真影拝謁、教育勅語奉読、君が代斉唱などの要素は、人々を「国民」として統合する働きをもつものである（久富・長谷川 2008：173-174）。それと同時に、これらの要素は各学校を差別化する側面もあった。当初御真影の「下賜」は、地域の優秀校が自ら「下賜」を願い出てはじめて実現されるものであり、他の学校に対しては「優等」の基準への同調を促すものだった（佐藤 2004：188）。御真影だけでなく、唱歌指導が十分になされていない学校はそれを免除するという措置もとられ、各学校の儀式に差別化がもたらされていく。そのような措置は 1900 年の小学校令施行規則の段階にも及んでいる（表 4 参照）。

(7) 各地の「次第」においては、儀式規程第 4 条「生徒ヲ率キテ体操場ニ臨ミ若クハ野外ニ出テ遊戯体操ヲ行フ等生徒ノ心情ヲシテ快活ナラシメンコトヲ務ムヘシ」、および第 7 条「生徒ニ茶菓又ハ教育上ニ裨益アル絵画等ヲ与フルハ妨ナシ」については一部の例外（富山県）をのぞいて言及しない。「次第」は、式場で展開する厳格な時空間の定めにその関心が集中しており、儀式規程に記された生徒側への 2 つの「配慮」は退いている。このことは、何より各学校において儀式の「外形」を整えることに注力していたことを示すものである。

これらのことは、各地で祝日大祭日儀式のような厳格な行事を新規におこなうためには「次第」作成という中間的段階通じて具体的な準備や進行要領をつくることが不可欠だったという事情を示しているように思われる。儀式規程成立に至るまで経験したことの少ないような性質の「外形」を持つ儀式が急激に導入されていったことを象徴するものであろう。

【参考文献】

- 相島亀三郎（1910）『学校儀式要鑑』前川文榮閣。
籠谷次郎（1994）『近代日本における教育と国家の思想』阿吽社。
久富善之・長谷川裕編著（2008）「国民国家・ナショナリズムと教育・学校——その原理的考察」『教育社会学』学文社。
小野雅章（2010）「小学校令施行規則（1900年8月）による学校儀式定式化の諸相」『教育学雑誌』第45号、日本大学教育学会。
佐藤秀夫（1963）「わが国小学校における祝日大祭日儀式の形成過程」『教育学研究』第30巻第3号。
——編（1994）『続・現代史資料 教育 御真影と教育勅語Ⅰ』みすず書房。
——編（2002）『日本の教育課題5 学校行事を見直す』東京法令出版。
——（2004）『教育の文化史1 学校の構造』阿吽社。
——（2005）『教育の文化史4 現代の視座』阿吽社。
山本信良・今野敏彦（1973）『近代教育の天皇制イデオロギー 明治期学校行事の考察』新泉社。
山本信良（1999）『学校行事の成立と展開に関する研究』紫峰図書。

【資料】

●文部省：1891=M24.6.17

小学校祝日大祭日儀式規程

- 第一条 紀元節、天長節、元始祭、神嘗祭及新嘗祭ノ日ニ於テハ学校長、教員及生徒一同式場ニ参集シテ左ノ儀式ヲ行フヘシ
- 一学校長教員及生徒
天皇陛下及
皇后陛下ノ 御影ニ対シ奉リ最敬礼ヲ行ヒ且
両陛下ノ萬歳ヲ奉祝ス
但メタ御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ本文前段ノ式ヲ省ク
二学校長若クハ教員、教育ニ関スル 勅語ヲ奉読ス
三学校長若クハ教員、恭シク教育ニ関スル 勅語ニ基キ 聖意ノ在ル所ヲ誨告シ又ハ
歴代天皇ノ 成徳 鴻業ヲ叙シ若クハ祝日大祭日ノ由来ヲ叙スル等其祝日
大祭日ニ相応スル演説ヲ為シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養センコトヲ務ム
四学校長、教員及生徒、其祝日大祭日ニ相応スル唱歌ヲ合唱ス
- 第二条 孝明天皇祭、春季皇霊祭、神武天皇祭及秋季皇霊祭ノ日ニ於テハ学校長、教員及生徒一同式場ニ参集シテ第一条第三款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ
- 第三条 一月一日ニ於テハ学校長、教員及生徒一同式場ニ参集シテ第一条第一款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ
- 第四条 第一条二掲クル祝日大祭日ニ於テハ便宜ニ從ヒ学校長及教員、生徒ヲ率キテ体操場ニ臨ミ若クハ野外ニ出テ遊戲体操ヲ行フ等生徒ノ心情ヲシテ快活ナラシメンコトヲ務ムヘシ
- 第五条 市町村長其他学事ニ関係アル市町村吏員ハ成ルヘク祝日大祭日ノ儀式ニ列スヘシ

第六条 式場ノ都合ヲ計リ生徒ノ父母親戚及其他市町村住民ヲシテ祝日大祭日ノ儀式ヲ参観スルコトヲ得セシムヘシ

第七条 祝日大祭日ニ於テ生徒ニ茶菓又ハ教育上ニ裨益アル絵画等ヲ与フルハ妨ナシ

第八条 祝日大祭日ノ儀式ニ関スル次第等ハ府県知事之ヲ規定スヘシ

(文部省令第4号)

●埼玉県：1892=M25.1.26（山本・今野 1973：82-83 より転載）

小学校祝日大祭日ノ儀式ニ関スル次第等

第一条 小学校祝日大祭日儀式規程第一条ノ次第左ノ如シ

午前九時学校長教員生徒入場

次参列員入場

次参観人入場

次学校長儀式挙行ノ旨ヲ告ク

教員生徒敬礼

次学校長

天皇陛下及

皇后陛下ノ 御影ヲ開扉ス

次順次規程第一条各款ノ式ヲ挙行ス

次学校長 御影ヲ閉扉ス

次学校長儀式畢ルヲ告ク

教員生徒敬礼

次参観人退場

次参列員退場

次学校長教員生徒退場

第二条 規程第二条又ハ第三条ノ儀式ニハ各其条ニ前条ノ次第ヲ取捨スヘシ

第三条 天皇陛下及

皇后陛下万歳ヲ奉祝スルニハ学校長先ツ万歳ヲ唱ヘ教員生徒之ニ和スルコト三次トス

第四条 敬礼ヲ行フニハ統テ風琴又ハ号令ニ依ルヘシ

第五条 祝日大祭日ニハ殊ニ校内ヲ清潔ニシ校門及式場ニハ国旗ヲ交叉シ相応ノ装飾ヲナス等統テ嚴肅鄭重ヲ主トスヘシ

第六条 祝日大祭日ノ儀式ヲ行フノ際唱歌用ニ供スル歌詞及楽譜ハ文部省ノ撰定ニ係ルモノ及本県ニ於テ指定シタルモノニ限ルヘシ

●長野県：1892=M25.2.5（佐藤編 1994：72-74 より転載、一部省略）

小学校祝日大祭日儀式次第

第一条 紀元節 天長節 元始祭 神嘗祭及新嘗祭ノ儀式ハ左ノ次第ニ拠ルヘシ

但未タ 御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ第四款第十款第十一款ヲ省ク

一 生徒ノ父母親戚及町村内ノ参観人着席

二 生徒一同着席

三 町村長学校職員其他参列員着席

四 学校長若クハ首席教員 陛下ノ 御影ヲ奉開ス 此間一同起立

- 五 一同最敬礼
学校長若クハ首席教員一同ニ代リ左ノ祝辞ヲ陳フ
 謹テ天皇陛下ノ万歳ヲ祝シ奉ル
 謹テ皇后陛下ノ万歳ヲ祝シ奉ル
六 唱歌（君が代）一同起立合唱ス
七 学校長若クハ教員 勅語ヲ奉読ス 此間一同起立
八 学校長若クハ教員小学校祝日大祭日儀式規程第一条第三款ニヨリ演説ス
九 唱歌（第四条ニ拠ル）一同起立合唱ス
十 一同最敬礼
十一 学校長若クハ首席教員 陛下ノ 御影ヲ奉閉ス 此間一同起立
十二 一同退席

第二条 孝明天皇祭 春季皇霊祭 神武天皇祭及秋季皇霊祭ノ儀式ハ左ノ次第ニ拠ルヘシ

- 一 生徒ノ父母親戚及町村内ノ参観人着席
二 生徒一同着席
三 町村長学校職員其他参列員着席
四 学校長教員小学校祝日大祭日儀式規程第一条第三款ニヨリテ演説ス
五 唱歌（第四条ニ拠ル）一同起立合唱ス
六 一同退席

第三条 一月一日ノ儀式ハ左ノ次第ニヨルヘシ

但未タ 御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ第四款第八款第九款ヲ省ク

- 一 生徒ノ父母親戚及町村内ノ参観人着席
二 生徒一同着席
三 町村長学校職員其他参列員着席
四 学校長若クハ首席教員 陛下ノ 御影ヲ奉開ス 此間一同起立
五 一同最敬礼
 学校長若クハ首席教員一同ニ代リ左ノ祝詞ヲ陳フ
 謹テ天皇陛下ノ万歳ヲ祝シ奉ル
 謹テ皇后陛下ノ万歳ヲ祝シ奉ル
六 唱歌（君が代）一同起立合唱ス
七 唱歌（第四条ニ拠ル）一同起立合唱ス
八 一同最敬礼
九 学校長若クハ首席教員 陛下ノ 御影ヲ奉閉ス 此間一同起立
十 一同退席

第四条 前各条ノ歌詞及楽譜ハ左ノ如シ〔省略：引用者〕

第五条 最敬礼ノ式ハ帽ヲ脱シ体ノ上部ヲ傾ケ頭ヲ垂レ手ヲ膝ニ当テ、敬意ヲ表スルモノトス
但女子洋服着用ノ節ハ脱帽ノ限リニ在ラス

第六条 町村長学校職員其他参列員ハ礼服又ハ袴羽織ヲ着スヘシ

第七条 生徒及参観人ニハ可成礼服羽織袴又ハ洋服ヲ着セシムヘシ

第八条 式場ハ清潔ニシテ整肅ナルヲ要ス

第九条 第一条第六款第九款第二条第五款第三条第六款第七款ハ唱歌ヲ教授セサル学校ニ於テハ之ヲ省クコトヲ得

（長野県令第八号）

小学校祝日大祭日ノ儀式ニ関スル次第

第一条 祝日大祭日ノ儀式ハ特ニ式場ヲ設ケ厳肅ニ挙行スヘシ

学校長教員及参列員ハ必ス礼服ヲ着用スヘシ

第二条 儀式規程第一条ノ儀式挙行ノ次第左ノ如シ

一 学校長教員児童参列員及参観人順次入場

二 学校長儀式挙行ノ旨ヲ告ク

三 御影ノ幌ヲ掲ク此時一同起立最敬礼

四 学校長拝賀次ニ教員以下一同拝賀

五 唱歌（君カ代二回）一同起立

但唱歌ヲ合唱シ能ハサル学校ニ於テハ適宜

両陛下ノ萬歳ヲ奉祝スル意ヲ表スヘシ

六 勅語奉読 一同起立

七 御影ノ幌ヲ垂ル此時一同起立最敬礼

八 誨告 演説

九 唱歌（相応ノ歌詞）

但唱歌ヲ合唱シ能ハサル学校ニ於テハ之ヲ省クコトヲ得

十 学校長式ノ終ルヲ告ク

十一 学校長教員児童参列員及参観人順次退場

未タ御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ前項第三款第四款及第七款ノ儀式ヲ省ク

第三条 儀式規程第二条ノ儀式挙行ノ次第左ノ如シ

一 学校長教員児童参列員参観人順次入場

二 学校長儀式挙行ノ旨ヲ告ク

三 学校長遙拝次ニ教員以下一同遙拝

四 誨告 演説

五 唱歌（相応ノ歌詞）

但唱歌ヲ合唱シ能ハサル学校ニ於テハ之ヲ省クコトヲ得

六 学校長式ノ終ルヲ告ク

七 学校長教員児童参列員及参観人順次退場

第四条 儀式規程第三条ノ儀式挙行ノ次第左ノ如シ

一 学校長教員児童参列員及参観人順次入場

二 学校長儀式挙行ノ旨ヲ告ク

三 御影ノ幌ヲ掲ク此時一同起立最敬礼

四 学校長拝賀次ニ教員以下一同拝賀

五 唱歌（君カ代二回）一同起立

但唱歌ヲ合唱シ能ハサル学校ニ於テハ適宜

両陛下ノ萬歳ヲ奉祝スル意ヲ表スヘシ

六 御影ノ幌ヲ垂ル此時一同起立最敬礼

七 唱歌（相応ノ歌詞）

但唱歌ヲ合唱シ能ハサル学校ニ於テハ之ヲ省クコトヲ得

八 学校長式ノ終ルヲ告ク

九 学校長教員児童参列員及参観人順次退場

未タ御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ前項第三款第四款及第六款ノ儀式ヲ省ク

（兵庫県令第40号）

小学校祝日大祭日儀式ノ次第等

第一条 紀元節天長節元始祭神嘗祭及新嘗祭ノ日ノ儀式ノ次第左ノ如シ

- 一 学校長教員及生徒着席
- 二 市町村長市町村学事関係吏員及参観人着席
- 三 市町村長学校長教員市町村学事関係吏員順次
天皇陛下及
皇后陛下ノ 御影ニ対シ奉リ最敬礼ヲ行フ
- 四 教員生徒ニ向ヒ「最敬礼」ト号令ス
生徒一同坐席ニ在テ起立シ
天皇陛下及
皇后陛下ノ 御影ニ対シ奉リ最敬礼ヲ行フ
教員「直レ」ト号令ス
- 五 学校長若クハ主席教員 御影ノ前ニ進ミ出ツ（御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ生徒ト方向ヲ全フシテ其
前ニ進ミ出ツ）
参列者一同起立
学校長若クハ主席教員「謹テ
天皇陛下
皇后陛下ノ万歳ヲ祝シ奉ル」ト唱フ（二名以上ノ教員ヲ置ク学校ニ在テハ「職員一同ニ代リ謹テ 天皇
陛下 皇后陛下ノ万歳ヲ祝シ奉ル」ト唱フ）
- 六 学校長若クハ首席教員（御影ノ前ヲ避ケテ）生徒ニ面ス
生徒総代一名学校長若クハ首席教員ノ前ニ進ミ出テ「生徒一同ニ代リ謹テ 天皇陛下 皇后陛下ノ万歳
ヲ祝シ奉ル」ト唱フ
- 七 学校長教員及生徒当日ニ相応スル唱歌ヲ合唱ス
- 八 学校長若クハ教員恭シク教育ニ関スル 勅語ヲ奉読ス
- 九 学校長若クハ教員小学校祝日大祭日儀式規程第一条第三款ニ基キ誨告演説ヲナス
- 十 学校長教員及生徒当日ニ相応スル唱歌ヲ合唱ス
- 十一 市町村長市町村学事関係吏員参観人順次退場
- 十二 学校長教員及生徒順次退場

第二条 御影ヲ拝戴セサル学校ニ於テハ第一条第三款第四款ノ式ヲ省ク

第三条 孝明天皇祭春季皇霊祭神武天皇祭及秋季皇霊祭ノ日ニ於テハ第一条第一款第二款第七款第九款第十款
第十一款第十二款ノ次第ニ拠ルヘシ

第四条 一月一日ニ於テハ第一条第一款第二款第三款第四款第五款第六款第七款第十一款第十二款ノ次第ニ拠
ルヘシ

第五条 楽器ヲ設備スル学校ニ於テハ式中ノ号令及生徒ノ入場退場等ハ都テ楽器ニヨリ節ヲ取ルヘシ

第六条 祝日大祭日ニ於テ教育上ニ裨益アル絵画等ヲ生徒ニ与フルトキハ第一条第十款ト第十一款トノ間ニ於
テ之ヲ行フヘシ

第七条 最敬礼ノ式ハ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ両手ヲ膝ニ当テ、頭ヲ垂レ敬意ヲ表スルモノトス但男子着帽ノ節ハ
之ヲ脱シテ左腋ニ挿ミ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ右手ヲ膝ニ当テ、頭ヲ垂レ敬意ヲ表スヘク女子洋服着用ノ
節ハ脱帽ノ限ニアラス

第八条 市町村長学校長教員市町村学事関係吏員ハ当日礼服ヲ着用スヘシ

第九条 式場ニ於テハ最モ厳肅ヲ主トスヘシ

（富山県令第 28 号）

●大阪府：1892=M25.9.20（籠谷 1994：5-7 より転載）

小学校祝日大祭日儀式ニ関スル次第

第一条 小学校ニ於テハ祝日大祭日ノ儀式ヲ執行スル為メ清潔ナル場所ヲ撰ビ御影ニ関シテハ最厳正ナル装飾ヲナスヘシ

第二条 小学校ニ於テ紀元節天長節元始祭日神嘗祭日新嘗祭日ノ儀式ハ左ノ次第ニ依リ執行スヘシ

一 教員児童ヲ率ヒテ入場

二 市町村吏員入場

三 拝観人入場

四 学校長式始マルヲ告ク一同敬礼

五 教員 御簾ヲ捲ク

六 学校長

御影ノ前ニ進ミ最敬礼ヲ行ヒ万歳ヲ奉祝（発声ヲナス）スルト同時ニ

一同最敬礼ヲ行ヒ奉祝シ終テ学校長席ニ復ス

七 唱歌

八 学校長更ニ教育ニ関スル 勅語謄本ヲ捧ケ

御影ノ左側ニ正立シ参列席ニ向ヒ恭シク之ヲ奉読ス（一同最敬礼）

九 学校長又ハ教員更ニ

御影ノ左側ニ進ミ参列席ニ向ヒ恭シク教育ニ関スル 勅語ニ基キ演説ヲ

ナス（児童一同敬礼）

十 児童惣代

御影ノ前ニ進ミ祝辞又ハ頌表ヲ朗読シ終テ最敬礼ヲ行ヒ席ニ復ス（児童

一同最敬礼）

十一 唱歌君カ代二回

十二 教員 御簾ヲ下タス

十三 学校長式終ルヲ告ク一同敬礼

十四 拝観人退場

十五 市町村吏員退場

十六 教員児童ヲ率ヒテ退場

第三条 孝明天皇祭日春季皇霊祭日神武天皇祭日秋季皇霊祭日ノ儀式ヲ執行ス

ルトキハ 御影ニ関スル次第及 勅語ニ関スル次第ノ外総テ第二条ノ

各款ニ依ルヘシ

第四条 一月一日ノ儀式ヲ執行スルトキハ 勅語ニ関スル次第及演説ニ関スル次第ノ外総テ第二条ノ各款ニ依ルヘシ

第五条 紀元節天長節元始祭日神嘗祭日新嘗祭日及一月一日ノ儀式ヲ執行スルトキニ於テ未タ

御影ヲ拝戴セサル学校ニ在テハ拝礼ノ次第ハ之ヲ省キ万歳ヲ奉祝（発声ヲナス）シテ最敬礼ヲ行フヘシ

第六条 座礼ニ関スル最敬礼ノ方法ハ両手及頭ヲ席ニ着ケ平伏スルモノトシ敬礼ノ方法ハ両手ノ掌ヲ席ニ着ケ体ノ上部ヲ傾ケ頭ヲ垂レ敬意ヲ表スルモノトス

立礼ニ関スル最敬礼ノ方法ハ帽ヲ脱シ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ頭ヲ垂レ手ヲ膝ニ当テ敬意ヲ表スルモノトシ敬礼ノ方法ハ帽ヲ脱シ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ敬意ヲ表スルモノトス

第七条 儀式執行ノ時限ヲ定メ又ハ式場整理ノ為メ号鐘撃柝等ヲ用フルハ学校ノ便宜トス

第八条 凡式場ニ参集スルモノハ決シテ浮華虚飾ノ事アルヘカラス

（大阪府令第 50 号）

●文部省：1900=M33.8.21

小学校令施行規則（抜粋）

第二十八条 紀元節、天長節及一月一日ニ於テハ職員及児童、学校ニ参集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

- 一 職員及児童「君力代」ヲ合唱ス
- 二 職員及児童ハ
天皇陛下
皇后陛下ノ御影ニ対シ奉リ最敬礼ヲ行フ
- 三 学校長ハ教育ニ関スル勅語ヲ奉読ス
- 四 学校長ハ教育ニ関スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
- 五 職員及児童ハ其ノ祝日ニ相当スル唱歌ヲ合唱ス

御影ヲ拝戴セサル学校及特ニ府県知事ノ認可ヲ受ケ複写シタル御影若ハ府県知事ニ於テ適当ト認メタル御影ヲ奉蔵セサル学校ニ於テハ前項第二号ノ式ヲ闕ク又唱歌ヲ課セサル学校ニ於テハ第一号及第五号ノ式ヲ闕クコトヲ得

（文部省令第 14 号）